

平成30年度 家族並びに施設職員研修会盛況

～ 2地区支部家族会から発表 ～

平成30年度家族並びに施設職員研修会が、平成31年1月19日（土）～20日（日）の両日、霧島市のホテル京セラで開催されました。会場を埋め尽くす300余名の参加者とプログラムの多彩なこともあり、たいへん盛り上がった2日間でした。

家族と施設職員との合同研修会の開催は、全国的にもあまり例を見ない研修会であることをお聴きする度に、このような機会を設けていただいている鹿児島県知的障害者福祉協会みな様に感謝の気持ちで一杯になります。

開会のことばの中で、福祉協会の水流純大会長より、第38回全国中学生人権作文コンテスト鹿児島大会で最優秀賞に輝いた鹿児島市立伊敷台中学校1年生宮下和さんの「見えない心 豊かな心」について話されました。宮下さんは、この作文の中で2年前の神奈川県相模原障害者施設やまゆり園で発生した事件で感じたことや「私には、ダウン症の妹がいる。家族は、妹がいるから楽しい。いつも明るくにこにこ笑っている妹がいて毎日幸せだ。妹がいて不幸と思ったことは一度もない。妹がいない生活は考えられない。どんな命も大切に、差別しない人が、英雄であり、救世主だ。障がいを持って、可能性は無限にある。私は妹の笑顔を、これからも守っていきたい。」とあります。（平成30年12月4日付け、南日本新聞掲載あり）昨今、障がいのある人も、障がいのない人も「良き隣人」としての共生社会が求められていますとも話されました。家族としてたいへん嬉しいことでした。



家族会も共催として参加させていただいており、家族の想いの発表や家族会員と施設職員の方々との意見交換ができるなど、家族としての情報交換のできる場にもなっています。

家族会連合会の兼廣倫生会長より、家族会連合会の全国大会や鹿児島県の研修会の様子の報告がありました。昨年10月23～24日、「今から始める第一歩、福祉の後退は許さない」というテーマで神戸市において、「全施連全国大会 in ひょうご」が開催され、全国から家族会員約600名、鹿施連から5名が参加し、厚労省の行政報告や泉房穂明石市長さんから「やさしい社会を明石から」とした記念講演等のことを報告されました。

また、平成30年11月14日、ハートピアかごしまにおいて、鹿施連研修会が開催され、約100名の参加があったこと等々の報告がなれました。

研修Ⅰの「家族として思うこと」では、鹿児島市地区支部の吉田愛青園家族会の内田信義さん

と南薩摩地区支部のふじ美の里保護者会の川添千鶴子さんから、それぞれのお子様の誕生から現在までの歩みの報告があり、親として深く共感し、そして今後も頑張らねばと勇気付けられることでした。

研修Ⅱの「職員からのメッセージ」では、花の木ファームの栄養士池野沙也加さんから、栄養士・支援員として求められていること。一方、親として思うことについて、「栄養士は“人の喜び”を感じるすてきな職業と感じています。私にとっては、職場、利用者さんにとっては生活の場。今後は、利用者の方々の声を聞きながら、家庭を感じることができる料理を提供したい。」などと話されました。特に、親元を離れて生活している利用者への食事献立にご苦労されていることが分かり、家族として安心しました。

また、「グループディスカッション」では、24のグループに分かれて多面的に意見交換がおこなわれました。

「サッカーの魅力」では、始良市在住の知的障がい者サッカー日本代表監督の西 眞一さんの講演を拝聴し、知的障害者の特性を理解されたうえで本気でこれほど知的障がい者サッカーに打ち込みできる人もいます。サッカーを通じてどんな障害者の方ともつながることが分かった。サッカーと福祉には、目配り、気配り、耳配りなど共通するものがあり、共感できたなどと深い感動を覚えることでした。(1ページの写真が西 眞一さん)

研修会の最後は、MBCタレントの野口たくおさんの講演「元気であれば何でもできる！パート2」で会場内を笑いの渦にしなから「優しい言葉を他人にも自分にもかけてやり、自分を褒めてください。」と日ごろの悩みなどを解消し、笑いの中での生き方のヒントをいただきました。

まだ参加されたことのない会員のみな様も、是非一度は参加してほしい貴重な研修会です。

平成30年度 県家族会連合会研修会開催

～「どうする？家族とわが子らの高齢化」のテーマで真剣な意見交換～

平成30年11月14日(水)、ハートピアかごしまにおいて、鹿施連研修会を「どうする？家族とわが子らの高齢化」をテーマに家族会員約100名が参集し、利用者の生活状況に基づきグループ分けを行いディスカッションを行いました。家族や施設職員の日ごろの思いを話され、胸のつかえが取れて、すっきりとした気分になりましたとの報告もありました。

昨年の研修会の反省で、次年度もグループディスカッションを行いたいとの希望者が多く、家族同士でお互いに日ごろの悩みや苦勞、施設の行事への参加、要望などを話したり、聞いて欲しいなどと多数のご意見もあり企画しました。

会員や施設職員の話し合いだけに研修会にどれだけの参加があるかと心配もしましたが、会員の皆様方の関心が高く100余名の参加があり、活発な意見交換がなされました。お互いに遠慮なしで話し合い「どうする？家族とわが子らの高齢化」を浮き彫りにした研修会でもありました。

9グループに分かれ、1グループ10人くらいであらかじめ役割分担していた鹿施連の役員をリーダーとして、各グループ内での自己紹介、記録者選出のあとフリートーキングで話し合いが始まりました。休憩を取り入れながら約100分間にわたり話し合いが続けられました。話し合いの



後、各グループのリーダーから話し合いの様子が報告されました。

グループによって話題になった事項の順序は異なりますが、共通して多くの事項が取り上げられました。取り上げられた主なものは、次のようなものでした。

- 親の高齢化や死去による影響
- 利用者本人の高齢化による課題の出現
- 成年後見制度利用上の課題や問題点
- 施設への入所の手続き（家族会の利用、助言求む）
- 施設の経営理念への要望、職員への感謝の気持ち
- 障害の特性に応じた支援
- 職員の待遇についての家族会の考え方
- 利用者とその兄弟姉妹との関わり
- 65歳で遭遇する介護保険との関係
- 終の住処の考え方
- グループホームでの生活上の不安
- 施設での支援の在り方
- 行政への要望
- 親の勉強（情報の取得）の必要性

また、「親同士が本音で話し合える研修会は良かった。」と数多くの声が聞け、盛り上がりました。

時間が余った時には全施連の全国大会の報告に当てようとその準備をしていましたが、その時間も無く紙上で報告することになりました。みな様のご協力に感謝申し上げます。次年度の研修会も計画中です。ご意見をお寄せください。

鹿児島地区支部研修会（講演会）のお知らせ

期日・時間 平成31年3月7日（木）15:00～17:00

場所 鹿児島市上荒田町19-1 ジェイドガーデンパレス（鹿児島市立病院近く）

講師 鹿児島市成年後見センター相談員

（お願い）

鹿児島市地区支部以外の家族会員の方で参加を希望される方は、資料の準備等の関係で下記までご連絡ください。鹿児島市地区支部の家族会には、別途案内を差し上げてあります。

連絡先 事務局 川畑岩夫（☎099-281-9548）

平成30年度 全施連全国大会 in ひょうご

大会のテーマ「今から始める第一歩 ～福祉の後退を許さない～」

「全国知的障害者施設家族会連合会第14回全国大会 in ひょうご」が兵庫県神戸市のシーサイドホテル舞子ビラ神戸において、平成30年10月23日（火）～24日（水）の両日開催されました。鹿児島県から会長の兼廣、副会長の小城、監事の中村、事務局長の川畑の4名と個人的に吉田愛青園家族会長内田さんが参加し、全国から約600名の参加がありました。兵庫県の家族会連合会は、組織自体も大きいですが、準備段階から当日まで各家族会が一致団結して協力しながら開催とのことでした。たいへん心温まる運営でした。各県の家族会が組織自体に多くの課題を抱えている現状を鑑みたとき参考にしていくべき開催運営ではなかったのではないのでしょうか。

大会テーマとして「今から始める第一歩 ～福祉の後退を許さない～」が掲げられました。「我が事・丸ごと」地域共生社会の仕組みで、知的障害をもつわが子らは、真のしあわせな生涯が送れるのでしょうか。様々な局面から考え、討論を深めました。

全員参加型の討論会をメインと位置付け、1日目が「今から始める第一歩」のテーマに厚労省の行政報告や、泉 房穂明石市長から「やさしい社会を明石から」と題した記念講演がありました。2日目は、全員参加型討論会、「どうする？家族とわが子らの高齢化」として、それぞれ4名の方々から発表があり、それに対して助言者や会場からの発言もありました。

「今の住み慣れた生活環境を変えずに穏やかに暮らして欲しい。家族として10年後、20年後を見据え、身体の認知機能の低下を予防し、生活の質の向上と安心、安全、快適な暮らしを支えるため、家族と施設が一丸となって支援体制を見直し」、「高齢化に伴う課題として、60歳を過ぎ、就労ができないし、週末帰省もままならない。介護的、余暇的な支援と健康への支援、作業の見直しが必要」、「終の住処として安心して託せる支援施設」等の訴えが家族からなされました。

大会決議案が7項目にわたって示され、大きな拍手で承認されました。全国の仲間との交流の深まった2日間でした。

次年度は、宮城県での開催です（2019年10月7～8日）。鹿児島県において、全国大会を開催して欲しいとの声が多く上がっています。「鹿児島国民体育大会・全国障害者スポーツ大会」後に開催してはと役員一同で話し合いを深めております。みな様方のご協力をお願いいたします。鹿施連からも全国に向けて発信していきましょう。



第14回全国大会「in ひょうご」の大会決議文

- 1 障害福祉制度と介護保険制度の一体化、統合は廃止してください。
- 2 24時間切れ目のない支援で快適に安心・安全に暮らせる障害者支援施設やグループホームを居住とする家と位置づける制度を新設してください。
- 3 支援の制度に繋がる支援区分は、本人に必要な支援が受けられる仕組みに変えてください。
- 4 安定して必要な支援が受けられる職員の定数増と処遇改善を急いでください。
- 5 知的障害者の特性を熟知し、福祉職の専門家としての施設職員を育成してください。
- 6 生活保護費以下の障害基礎年金を引き上げ、憲法に保障された公的責任を果たしてください。
- 7 国及び地方公共団体は、知的障害者への障害福祉サービスを提供する義務を負うこととしてください。

編集後記

会報「かごつま家族ねっと」は、年2回の発行で、半年分の鹿施連の活動の紹介になり、大会とか研修会の様子の紹介で旧聞に属することも掲載せざるをえませんことをご了解ください。また全国規模の活動や各県の活動の様子は全施連のホームページ (<http://zennsiren.web.fc2.com/>) に紹介されておりますのでご覧ください。平成31年度の会報は、8月と2月の発行予定です。

会報に関するご意見、各地区支部の活動、各家族（保護者）会の行事、諸活動の様子など（写真付き）は大歓迎です。遠慮なく事務局までお寄せください。お待ちしております！！